

山本のぶあき後援会だより

yamamoto nobuaki supporters' association news

平成23年

夏号

第47号

飛翔会

発行／奈良県議会議員 山本のぶあき後援会事務所 檀原事務所 〒634-0834 檀原市雲梯町862-1 TEL.0744-24-0148 FAX.0744-24-0149



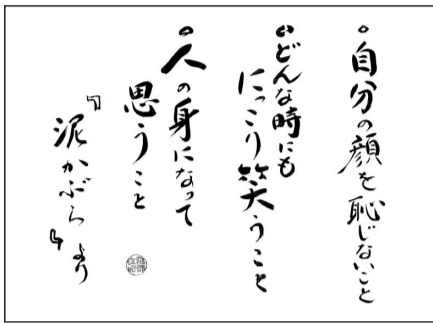
過疎・南部地域振興対策特別委員会委員長として

感謝。四月の県議会選挙では、本当にお世話になり、心より御礼申し上げます。ただ、今回の選挙は、三月十一日、二時四十六分に発生

山本のぶあき

奈良県議会議員

ごあいさつ



「泥かぶら」とは…作者、眞山美保さん。昭和27年の初演以来、国内外で7000回以上も上演されている名作。

山本進章様
友あり
道あり
明日あり
歌津中学校
校歌より

一に命 親のうけひ自分の命を大切にし、同じまに他人の命を尊び、健康でたくましく生きてほしい。
二に心 やさしい、怒る心の向きを持ち、思ふの心を持ち、情し感動し、遊戯心を持って生きてほしい。
三に夢 自分の目標を持ち、小さな夢を大夢に、いつかいつか大きく生きてほしい。二度とない人生だから、再見

東日本大震災被災地である宮城県南三陸町立歌津中学校阿部友昭校長先生から頂いた直筆色紙。

て用バ何れててどとはわすこ
、意スとないら見し、
届しをか。



南三陸町歌津中学校グラウンド内仮設住宅建設現場にて

した、東日本大震災により、被災地に向かつて、義援金・義援物資を募りながら、また東北に少しでも元気を送りたいたいの思いから、新芽・新たな命を吹き込む色・再生の意味を表す、緑のウエアを来て選挙をさせていただきました。選挙が終わってからも、『復興が復興に、何か力になりました！現地へボランティアで行きたい！』と思っていたところ、五月三日、医師団から医療支援活動ボランティアで、宮城県南三陸町現地におられた、私が理事長を勤める施設の主治医、森ドクターから、電話がありました。

急なことでしたが、施設関係者の皆さんの被災地への思いも強く重なり、バスを届けることを決断して、次の日、五月四日の朝から出発し、十六時間かけ、夜の十二時に届けることが出来ました。避難場所となつて居る、南三陸町立歌津中学校の阿部校長先生から、大震災の起きた時、津波が襲って来た時の様子を聞かせて頂き、その凄さに驚きとこの二ヶ月間の大変なご苦労に、ただただ、お見舞いを申し上げることしか出来ませんでした。そして、次の日、被災地を案内して頂き、報道以上の、その悲惨な状況に、言葉も出ませんでした。しかし、現地の人達の前向きな姿勢や言葉に、こちらが逆に元気を頂きました。

被災に遭わなかった奈良の私達が、義援金・義援物資を募りながら、経済活性化をして、復旧・復興に力を注いでいかなくてはと決意して、帰って来ました。さて、六月に入り、新県議会の構成も決まり、常任委員会は、文教・くらし委員会に特別委員会は、過疎・南部地域振興対策特別委員会に所属委員長に選任されました。私が選挙で訴えてきた『南都創造！』を実現する、まさに的を射た委員会であり、す。しっかりと、中南地域発展に努力して参ります。これからの四年間は、震災復興、消費税を含む税の改革、社会保障制度、教育改革、活性化、福祉対策、教育、観光施策、文化の拠点づくり等、高市本に大事な四年です。

所属委員会決定！

文教・くらし委員会(くらし創造部及び教育委員会の所管に属する事務に関する事項)

委員長	尾崎 充典
副委員長	鍵田忠兵衛
委員	浅川 清仁 森山 賀文 宮本 次郎 上田 悟 安井 宏一 山本 進章 和田 恵治

過疎・南部地域振興対策特別委員会(地域及び南部地域の振興に関すること)

委員長	山本 進章
副委員長	岡 史朗
委員	太田 敦 田中 惟允 浅川 清仁 辻本 黎士 秋本登志嗣 山下 力 川口 正志



お届けしたバスと校長先生(中央)森医師(中央右)南三陸町の皆さんと

郡・檀原市選挙区で二期目、通算四期目の選挙、皆様の絶大なご支援を頂き、トップ当選をさせていただいたことを励みに、これからも一所懸命政治に取り組みます。皆さま方の変わらぬご支援をお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。なお、最初の言葉は、被災地避難場所になつて居る、歌津中学校阿部校長先生から、プレゼントされた色紙を載せて頂きました。また校長先生から「施設のバスは、元気で、活躍している」とのことです。

東日本大震災に対する奈良県の取り組み

I 救命救急活動

(地震発生直後、人命救助のための緊急の取り組み)
活動期間 3/11(金)~3/26(土)
派遣人数 述べ約1,800名
★奈良県、市町村、民間団体が地震発生翌日から、被災地において活動を開始

II 被災者への支援(被災者のニーズに沿った、中長期的・継続的な取り組み)

地震発生直後の救命救急活動から、被災者への支援が取り組みの中心になってきました。奈良県では、被災者のニーズに沿った「人」「モノ」を被災地に送り込むとともに、被災者の奈良県への受け入れを今後も継続して実施していきます。また、被災県と被災市町村を支援するために、職員を派遣するなど必要な支援を継続的に行います。
★6/20現在 県内受け入れ被災者数61世帯・152名(県把握分)
★県職員の派遣 地震発生直後~6/10現在 派遣実人員・181名 延べ・1155名
★義援物資 6/20現在 377トン
★義援金 日本赤十字奈良県支部に寄せられた義援金6/20現在 12億6000万円(他団体が受け付けたものとあわせて、義援金配分委員会より市町村を通じて被災された方々に届けられます)

平成23年度6月補正予算

補正予算の規模は・・・総額231億2千万円。内、東日本大震災対応に、5億6151万2千円。
被災県等の要請を踏まえ、医療救護班・保健婦・警察官の派遣、被災企業への支援を行うほか、平城遷都1300年祭と全国緑化フェアの決算剰余金(県に返還分)合わせて3億2760万円を岩手・宮城・福島に送る。